

岩屋寺きりあけの切開



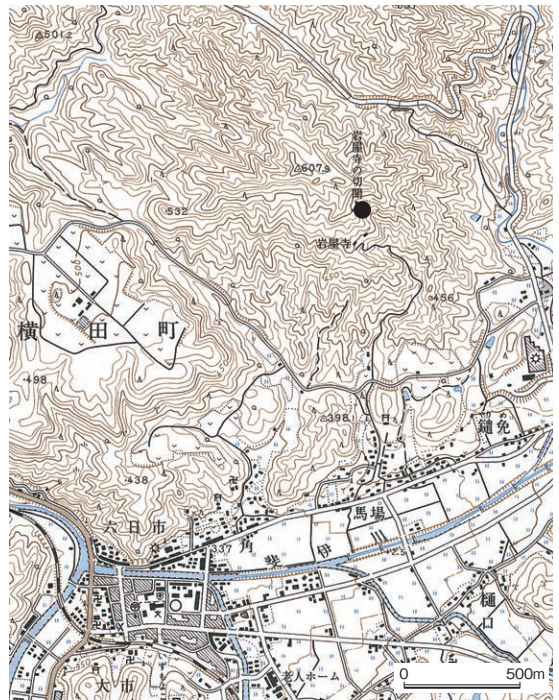
奥出雲町横田の市街地北東2 km、標高500 mの山中に、岩屋寺(廃寺)があります。その寺の脇を北に約100 m行ったところが国の天然記念物「岩屋寺の切開」です。

切開は斐伊川の上流にそそぐ沢の最奥部にある峡谷です。高いところから見下ろすと、それは沢の中を新たに削り込んでできた峡谷(谷中谷)であることが分かります。谷壁の高さは5 m~10 m、長さは75 m、幅3 mの深くて細長い、切通しのような峡谷です。

切開は川の浸食によってできたと考えられていますが、水はほとんど流れておらず、円磨された砂礫もありません。谷底は大小の角礫や粗い砂、それに倒木などです。谷底も20°近い勾配があります。このような峡谷が川の浸食作用でできたとは考えられません。

それではどのような作用でできたのでしょうか。調査で分かったことは、峡谷の底には断層破碎帯が伏在すること、岩壁には強い流れで壊された痕がいくつもあること、そしてこの下流域には土石流堆積物が分布していることです。これらのことは、土石流がやわらかい破碎帯を深く浸食し、硬い両側が残って峡谷となったことを示しています。(井上多津男*)

* 八東郡東出雲町春日



国土地理院発行 1/25,000 地形図「横田」を使用